

単元名：

「こそあど言葉」

(全○時間扱い中 第Ⅰ時)

授業日時 2021年7月1日(木) 第3校時

授業学級 3年2組

授業会場 3年2組教室

授業者

指導者

(1) 主眼(授業の手立て&ねらい)

方向や物の位置を伝えるときになにげなくこそあど言葉を使っている子どもたちが、色々な場所にあるものをどのこそあど言葉で表すかを考える場面で、こそあど言葉ごとにイラストを分けることを通して、自分からの距離の違いによって「この」と「あの」を使い分けていることに気づき、楽しみながらその特徴を考えることができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導	1. 好きな色を選ぶ。	「これがいい。」 「違うよそのとなりの。」	いくつかの似た色を見せる。 「みんなはどの色が好き？」	5
	【学習問題】「この」かな? 「あの」かな? それとも「その」かな?			
	2. こそあど言葉を知る。	「あれ!」 「それ!」 「おれ」	前のやり取りで出てきたこそあど言葉を取り出して書く。 「「これ」みたいに指さして使う言葉で「〇れ」になる言葉ほかにあるかな。」	5
	【学習課題】いろいろな場所にあるものを表すこそあど言葉を考えてみよう。			
開	3. 台詞の空欄に当てはまるこそあど言葉を考え、「これ」と「あれ」でイラストを分ける。	「これ!」 「どっちだろう。「あの」かな。「この」かな。」 近くにあるものは「この」で遠くにあるものは「あの」なのかな。 「山は「あの」でしょ!」。	イラストと台詞を見せる。 「この人はどのこそあど言葉を使っているのかな。」 ※周りの意見も確かめる。 「向こうに見える山だったらどうかな。隣の人の机の上においてあるものはどうかな。先生の机の上にあるものはどうかな。」	20
	4. ものを置く机を変えながら「この」と「あの」のどちらを使うかを考える。	「この〇〇。」 「あの〇〇。」 「でも私はあの〇〇だよ。」	机の周りに立ってもらう。 「この」と「あの」で色を分けて、紙に机の場所と子どもたちの場所を線でつなぐ。	10
終	5. 結果を確認し合う。	やっぱり近くは「この」で遠くは「あの」みたい。 「その」の距離ってどうなのかなあ。	【本時の評価(評価する対象)】 自分からの距離の違いによって「この」と「あの」を使い分けていることに気づき、楽しみながらその特徴を考えることができる。	5